

第21回 魚沼市「ありがとう作文コンクール」 優秀賞作文集

魚沼市では、「社会全体で子どもをはぐくむ運動」の一環として、そして、人への感謝の気持ちを感じとれる子どもに育ててほしいという願いのもと、ありがとう作文コンクールを毎年実施しています。

今年度の「第21回ありがとう作文コンクール」には、市内の小学生から291作品の応募がありました。その中から優秀賞に選ばれた4作品を紹介します。

◆ 優 秀 賞 ◆

なかよしなせかい	須原小学校	2年	さとう 佐藤	りさ 里咲
こはるせんせい ありがとう	堀之内小学校	3年	とよしま 豊島	ひかり 光莉
大きくなったねえ	広神東小学校	5年	さいとう 斎藤	はやま 颯真
ありがとう去年団長と 白組のみんな	須原小学校	6年	わたなべ 渡辺	そう 爽海



なかよしなせかい



須原小学校

二年

佐藤 さとう

里咲 りび

わたしは、なかよしなともだちがいます。なかよくしてくれてありがとうございます。

わたしは、いところがいます。あそびにきてくれてうれしいです。ありがとうございます。

わたしは、7人がぞくがいます。まい日けんかをしちゃうけどなかなかおりにして、ずっとなかよしです。かぞくありがとうございます。

きょうだいげんかは、みんながちよつとずつがまんをするときけんかがありません。

みんながきょうりよくするとやさしい心になります。

せかいのみんなもちよつとずつがまんしてきょうりよくするとやさしいきもちになるとおもいます。

ありがとうございます、いっぱいせかいになるといいな。



こはる先生ありがとう



堀之内小学校

三年

豊島 とよしま

光莉 ひかり

みなさんは「あすなる算数教室」を知っていますか？わたしは、はじめて知りました。

夏休みの八月十八日から二十二日まで、五日ありました。広かみコミュニティセンターの三かいの広いへやが教室です。そこで、算数のべん強をしたり高校生のお話を聞きました。学校の教室とちがう所が二こあります。

①つくえといすは、毎日じゅんびします。かたづけもします。みんなできょう力します。②となり先生がいます。わたしだけの先生です。その先生が「こはる先生」です。

学校より広ーいへやで、たくさんの先生がいるびっくりする教室でした。わたしの五日間をしようかいます。

八月十八日 月曜日

はじめてのあすなる算数教室。パパといっしょに、教室まで、行きました。ドキドキしました。こはる先生とじこしようかいをしました。二年生の時に習った「数、りよう、図形」のドリルをしました。こはる先生が教えてくれてとてもうれしかったです。

八月十九日 火曜日

早く行きたくて、前の日からじゅんぴをし
ました。八時四十五分まで車の中でまってい
ました。早く行きたくてソワソワしていまし
た。こはる先生と早くべん強がしたかったか
らです。

八月二十日 水曜日

大きらいな時こくと時間をしました。こは
る先生がやさしく教えてくれました。時こく
と時間は、きらいだけど、こはる先生とべん
強しているといやでは、ありませんでした。

八月二十一日 木曜日

この日は、テレビカメラの人がたくさんい
ました。ドキドキしたけどこはる先生がとな
りにいてくれてべん強ができました。この日
は、ママとのやくそくをやぶって八時三分
に教室に行きました。早く行きたかったから
です。つくえのじゅんぴをたくさんしました。
八月二十二日 金曜日

教室が終わるのがとてもさみしかったです。
こはる先生とべん強がもったしかったです。



あすなる算数教室がまたあるとうれしいで
す。大好きなこはる先生に手紙を書いてあり
がとうをつたえました。

二年生までは、おばあちゃんと夏休みのべ
ん強をしていました。おばあちゃんは、四月
七日になくなって、さみしい夏休みになると
思っていました。でも、あすなる算数教室で
こはる先生と苦手な算数をいっしょにべん強
してもらったら、さみしくもないし、いやで
もなくでどんどん問題がとけました。

苦手な算数をとんだり教えてくれて、こは
る先生ありがとうございます。
こはる先生は、高校生です。



大きくなったねえ



広神東小学校

五年

齋藤 さいとう

颯真 はやま

「颯真くん大きくなったねえ。」
しんさつ室に入っていくと、鈴木先生は、いつものように温かい声で話しかけてきてくれた。ぼくは、病院に行くのはきらいだけど、鈴木先生に会うのはいやじゃなかった。
「上をぬいでくれるかな。」
「そのベッドに横になってくれるかな。」
「むねにちょうしんきを当てるよ。」
「今度はかべの方を向いて横になってね。」
「体は痛くないかい。」
「もうすぐ終わるからね。もうちょっとがんばろうね。」
などとやさしい声で話しかけながらしんさつしてくれるからだ。ちゅうしゃとかを打たれると思うと、こわくなってしまっけど、鈴木先生のしんさつはリラククスしてねてしまったこともあった。

ぼくが川崎病になってしまったのは、二才の時だ。川崎病は、全身の血管にえんしょうを引き起こす病気で、百人に一人がかかる病気と聞いた。ぼくが高熱を出して、手足が真っ赤にはれたのを見て、お父さんとお母さんは、病院に連れて行き、すぐに入院が決まった。その日から退院するまでの九日間お父さんとお母さんが交代でぼくといっしょにいてくれた。夜いっしょにいてくれたのはお母さんで、ぼくの様子を日記に書き残してくれていた。それを読むと、ぼくがぐずったり、泣いてばかりしていたり、ごはんをなかなか食べてくれなかったりしている様子が分かった。お父さんは、ぼくが喜ぶだろうと思って、いろいろなDVDを借りてきてくれた。
それを見ると、泣き止むことが多かったそうだ。姉のわかちゃんも、ぼくに会うことができないので、「はやま大丈夫？」と心配していたこと、退院した日にとっても喜んでくれたことをお母さんから聞いた。



ところが、それから一年後、川崎病が再発してしまった。再発するのは、四人に一人だということだ。また、入院生活が始まった。

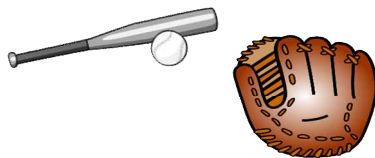
お母さんとお父さんが書いてくれていた日記には、薬を飲もうとしないので、ぼくの好きな飲み物や食べ物にまぜて飲ませていた様子や、言うことを聞かないでかんごしさんを困らせていること、お母さんがいなくて大泣きしている様子などが書かれていた。姉のわかちゃんも、ぼくがいなくて悲しかったことを「いっしょがいいな」という題がありがとう作文に書いてくれていた。お父さんとお母さんの日記や、わかちゃんのありがとう作文を読むと、家族みんなに心配をかけていたことがよく分かった。そして、元気で生活できることは、それだけで幸せなんだということがよく分かった。

今、ぼくは元気に学校に通っているだけでなく、地域の野球チームに入って、キャッチボールやバッティングの練習などをがんばっている。



大変なことやつらいこともあるけれど、元気に運動できることはすばらしいことなんだと思う。小さいころ、家族みんなに心配かけた分、ちよつとくらいのことでも弱音をはかないでがんばっていかうと思っている。

今度鈴木先生の検査を受けるのは中学生になつてからだ。また、「颯真くん大きくなつたねえ。」つて言ってくれるかな。





発表会



ありがとう去年団長と白組のみんな



須原小学校 六年

渡辺 わたなべ

爽海 そう

一年生のころぼくは運動会の団長にあこがれた。けれど三年生ぐらいから人の前に立つのが苦手になってきておなかが痛くなる。団長にあこがれていたが団長になるのがいやになった。五年生のころ応援団に入った。人の前に立つのはいやだけれど団長じゃなければだいたいじょうぶだった。でもおなかは痛くなっていた。団長あいさつで団長はいつさいきんちようせず堂々としていた。団長が最後までなみだをこらえてやりきっていてふたたび団長にあこがれた。自分を成長させるため、あこがれた去年の団長をこえるため団長になることを決めた。



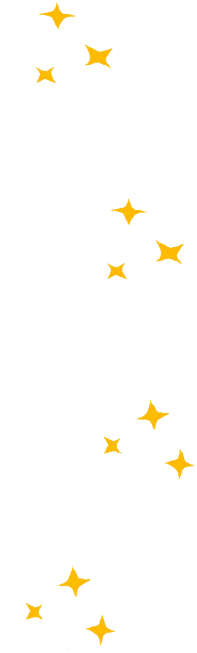
六年生になり五月の応援団を決める日になった。団長に立候補した。一回目の練習では自分でやろうとがんばったができず先生の力を借りてしまった。満足はできていないが今日は結団式だ。団長の決意発表で自分が団長になった理由を話しこれからどうしたいか話した。最後に「白組がんばるぞー。」と言ってみんなが「オー。」と言った。この時自分が団長になったことを自覚した。結団式が終わりに二回目の練習をどうしようか悩んでいたら副団長のリオンさんとこうさんが「副団長もたよって。」と言ってくれた。リオンさんとこうさんはふだんうるさいやつと思っていたけれどかっこいいと思った。

運動会



自分だけでやろうと思っていたがみんなにもたよろうと思った。応援団のみんなと考え、二回目の練習は先生の力を使わずにできた。だからかみんなが自分について来てくれるようになった。こんな自分にもみんながついて来てくれると分かり自信がついた。

運動会本番だ。自信がついたからきんちょうとしていない。むしろ楽しみだ。入場する。「白組いくぞー。」と全力で声を出しみんなは「オー。」と応える。開会式が始まった。ここでもう一つ自分がきんちょうしていない理由が分かった。自分は一人じゃないからだ。白組のみんながいる。このみんなと絶対ダブル優勝をとってやると思った。開会式は練習通りできた。競技が始まった。いろんな競技が赤組に負けていく。得点を見るとあと全部勝っても負ける。みんながあきらめていた。



けれどぼくは「せめてラストの大縄は勝とうよ。大縄で圧勝するぞー。」と言った。みんなは「オー。」と言ってくれた。そのおかげか大縄は圧勝できた。閉会式の成績発表では競技も応援も負けてしまった。最後に団長挨拶で次のように話した。「ぼくは自信がなく人の前にたつのがにがてでした。それをこくふくするため団長になりました。一回目の練習ではうまくいかず先生の力を借りてしまいました。二回目のをどうしようと考えていたら副団長のリオンさんとこうさんが『副団長もたよって。』と言ってくれました。それでできがらくになり、二回目は応援団全員で成功させてみんながついて来てくれるようになりました。こんな自分にもみんながついて来てくれると自信ができました。みんなの中にも自信がない人がいます。自信がない人はまず挑戦してください。挑戦するのがむずかしいならまわりの人にたよってもいいので挑戦してください。



最後に正々堂々戦ってくれた赤組、ぼくたちを応援してくれた保護者のみなさん、いろいろなことを教えてくれた先生方本当にありがとうございました。最高の運動会になりました。」

ぼくに団長になるきっかけをくれた去年の団長、自分に自信をつけてくれた副団長、白組のみんなありがとう。みんながいなかったら自分は成長できなかったと思う。これから自分も副団長のようにたよられた時は副団長みたいに全力でこたえたい。ぼくはこれから自分も成長させるためにチャレンジしたい。そう思えるようになった。本当にありがとう。



発表会



第21回ありがとう作文

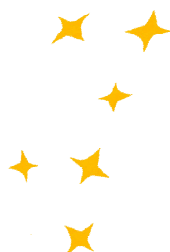
応募作品数

学年	1年生の部	2年生の部	3年生の部	4年生の部	5年生の部	6年生の部	総数
応募作品数	20	24	79	113	32	23	291
優秀賞		1	1		1	1	4
入選賞	3	3	3	3	3	3	18

ありがとう作文は今年で21回目を迎えました。
感謝の言葉、子ども達の「ありがとう」の気持ちは伝えたい相手に
真っすぐに伝わっていると感じております。

今年度も市内の多くの小学生から応募がありました。受賞とは
ならなかった作品もどれも素直な「ありがとう」の気持ちが書かれて
いて、とても素晴らしい作品ばかりでした。

たくさんのご応募、ありがとうございました。(生涯学習課)



発行 令和8年2月14日
魚沼市教育委員会事務局 生涯学習課
TEL: 025 (793) 7480
FAX: 025 (792) 1261
E-mail: syogaigakusyu@city.uonuma.lg.jp